

## 令和5年度 金沢市森づくり市民会議（第1回）

日 時：令和5年7月28日（金） 10時00分～11時30分  
会 場：金沢市役所第二本庁舎2階 2201会議室  
出席委員：飯島委員、石村委員、大河原委員、河崎委員、小杉委員、  
澤田委員、橘委員、鏝委員、中神委員、西多委員、前委員、  
増江委員、水越委員、柳井委員、横山委員  
事務局：山森農林水産局長、小杉森林再生課長 ほか7名

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長選出
- 5 議 題
  - (1) 令和4年度森林再生施策の実施報告  
及び令和5年度の取り組みについて
  - (2) 森と市民をつなぐ活動拠点の進捗について
  - (3) 市営造林の運用計画について
- 6 閉 会

### 【議事録】

事務局より説明

令和4年度森林再生施策の実施報告及び令和5年度の取り組みについて
----------------------------------

（会長）

令和4年度森林再生施策の実施報告及び令和5年度の取り組みについて意見はないか。

（委員）

金沢産材の供給量が平成26年に比べて目標値を大幅に上回っているが、その理由は何か。

（事務局）

令和3年度に植林に関する補助の幅が広がり、広葉樹も対象となったことに

起因するものと思われる。

(委員)

国の補助金対象から外れると、需要が減少し供給量が減少してしまう可能性があるので、需要を着実に増やしてほしい。

(委員)

クマ対策だが、最近ではクマが里山に頻繁に出没する事態が発生しているので、クマが出没したら駆除、あるいは捕獲するという取り組みを強化してほしい。

また、森林経営管理制度について、所有者の意向を調査した結果、市への委託を希望する旨の回答が 8 割とのことであったが、今後の具体的な対応を伺いたい。

(事務局)

今年度はクマの目撃情報が 17 件と少ない。捕獲と駆除については、昨年度、クマの餌が凶作ということで檻を 5 基増設した。今年度も捕獲に努めている。

2 点目の森林経営管理制度については、森林所有者の世代交代や高齢化によって森林の管理ができなくなり荒廃が進んでいるため、国は、この現状を受け、市町村が主体となって管理を行えるように同制度を設立し、森林環境譲与税を譲与している。しかし、すべて市が管理するという事は予算上不可能であるため、今年度は 3 ヶ所の集積計画を策定し、竹林の伐採を行う予定となっている。

(委員)

私は今、牧山町で自伐型林業をしているが、幼少期から住む住民はクマとのつき合い方を心得ている。対処療法ではなく、共生方法や危険察知の方法などの普及啓発を行っていくことも重要ではないかと思っている。

加えて、森林経営計画策定の際にも、自伐型林業も施業できるようにしてほしい。獣害対策としても、森林を整備するため人が常に出入りしていることを、クマに認識させることが大切だと思う。

(事務局)

クマ対策について、地元ではクマを目撃しても通報しない方もおり、そういった人達はうまく棲み分けができているのだと思う。

(委員)

同じクマに対してたくさん通報があると、たくさん熊がいると計上されてし

まうのではないか。

(事務局)

通常、よほどの場合を除き、重複の通報は少ない。

また、自伐型林業については、林業大学校の高度技術研修を実施するほか、地域おこし協力隊員の活動として自伐型林業従事者を募集している。

事務局より説明

森と市民をつなぐ活動拠点の進捗について

(委員長)

森と市民をつなぐ活動拠点の進捗について何か意見や質問はないか。

(委員)

補足的な説明になるが、昨年度は、専門部会員で、森から出た材料を都市の需要とつなげる会社の見学を行った。

また、金沢美術工芸大学の学生が参加する活動として、日頃森との関りが無い人が考える森との関わり方について検討し、専門部会にその成果について意見をもらうという活動を行った。

今年度は、授業の一環で、旧東浅川小学校跡地の拠点施設について、どんな利用形態が考えられるか、建築やインテリア、ロゴデザインまで考案する。学生の柔軟な考え方も拾ってほしいというのが思いである。

(委員)

旧東浅川小学校は、5つの機能を有する活動拠点であり、実際の活動は市内各地の野外フィールドを活用するとのことであったが、どこでどんな活動を行うことを想定しているのか。

また、既存の森林施設の活用と捉えてよいか。

(事務局)

5つの拠点機能のうち、特に活動・交流では、子供を対象とした森育活動を想定している。従来から「植える、育てる、伐る、使う」の森の循環を学ぶ機会として、市有地の森林や保全協定を締結した民有林をフィールドに、伐倒や植林の体験等を実施してきている。

今回の活動拠点施設の整備に併せ、森育イベントなども、まだ森林に関心のな

いような人や団体にも興味がわくようなものにブラッシュアップしていきたい。場所ありきではなく、「何をするか」を考えた上で、それに見合った場所を探す必要があると思っているが、これまで森や木と直接関係のなかった人や団体を森に引き寄せるためには、既に市民に親しまれているような活動や場所をフィールドとするなども1つの方法かと思っている。

(委員)

各フィールドでの活動と、拠点施設での活動の関連性が分かるような整備計画などがあると市民にもわかりやすい。

(事務局)

今後検討していく。

(委員)

専門部会は同じメンバーで継続していくのか。

(事務局)

専門部会については昨年度立ち上げたが、部会の方々に、どんな機能をこの新しい施設に取り入れるべきかということをご提案していただき、一旦はその役目を終えたということで、今年が発足していない。

(委員)

森育の観点から、子どもたちが森と関わっていく中で、クマとの付き合い方の教育的視点が必要である。拠点施設の活動は継続して取り組む必要がある。

(委員)

活動交流の木育活動は、小中学生のみが対象なのか。

(事務局)

小中学生を例に出したが、もちろん市民全体が対象である。広く子どもから大人まで、木の魅力に触れてもらえるような仕掛けができればと考えている。

(委員)

2年前のウッドショックが原因で、住宅着工件数が減少している。金沢産材の供給の安定による、木材価格の安定に取り組んではどうか。

木のある街並みをイメージし、デザインを加えて木を活用していくことで木

の価値が上がると思う。

木の価値を上げ、適正な価格で木を流通させ、きちんと林業従事者にお金が循環する仕組みづくりの活動拠点にしてほしい。

(委員)

今後、金沢産材を含む国産材の需要を増やしていきたい。補助金が出るから金沢産材を活用するのではなく、金沢に住むのであれば木を使って家を建てたいと思うような意識レベルに上げていきたい。

イベントを行う際にも、木材を無料で提供せず、木の価値を教えながら行ってほしい。

(委員)

イベントを無料で行うと、木の価値が参加者に伝わりにくい。人を集めるために、安易に無料で行うのではなく、少しでもお金を徴収してほしい。

(委員)

住宅の廃材利用という言い方をよくされるが、今、住宅の廃材は再生して製品になっているため捨てるところはない。工場で出てくる廃材と呼ばれるものは、牛舎の敷き藁や、ペレット、燃料などに製品化されている。

イベントは、どんな木にも価値があることを教えながら行ってほしい。

(委員)

自分は県産材を斜めに切ってペイントし、高く価値をつけている。一度に100万人に周知することはできないが、イベントに来てもらった50人は幸せにしたかと思っている。

拠点施設が、親子の活動の場になると嬉しい。

(委員)

森林のことを学ぶにも段階がある。興味を持ってもっと知識を入れたい、それがどんどん育って専門家になりたい、という人を育てるには母数を広げる必要があり、その際に無料の簡単なワークショップを開くことは効果的である。

その上で、そこから教育として少しずつレベルを上げていくと、有料化する必要がでてくると思う。何を体験できるか、どんな自分になるかというイメージを見せることができると、価値の高いワークショップになると思う。

(委員)

拠点施設は新築なのか、建て替えなのか。

(事務局)

基本的には改修での整備を考えている。

(委員)

金沢は木の文化都市であるという点も踏まえ、拠点施設がシンボリックなものになったらよいと思う。全国の例を参考にしながら、何か新しいデザイン的なものが設置され、木でこんなことができるのかという体験ができればよいと思う。

(委員)

なぜ森づくりが大切なのが分かりにくい。防災なのか、教育なのか、何がやりたいのか、各々には意義があると思うが、統一された目的が必要ではないか。

(委員)

林業にしても、どんな産業にしても、生計が成り立つものでなければ持続できない。

拠点施設でも、加工品の販売など、安価でもお金を使ってもらうことは大切である。一般市民の方の興味につながり、集えるような仕掛けも必要だと思う。

(委員)

知らない人に知ってもらうことが一番だと思う。

(委員)

拠点施設については、人が集まりやすい施設になってほしい。

また、野外フィールドとの関連づけをどうするのか。もっと具体的な計画の立案も必要なのではないか。

また、拠点施設には展示施設や、加工施設、新商品を並べるスペースがあればよいと思う。木材について、五感に繋がる活かし方があればよいと思う。

事務局より説明

市営造林の運用計画について

(委員)

売り払い場所の選定はどのように行ったのか。

(事務局)

試験的に市有地で行った。

(委員)

どれくらいの契約更新が終わっているのか。

(事務局)

期限が過ぎたもののうち、大体9割ほど延長契約が終わっている。残りの1割は、相続等の問題で、地権者とどうしても連絡が取れず、契約ができていない。

(委員)

危険なところをまず一番に把握しないといけない。

(委員)

想定外の集中豪雨が起ることもある。

(委員)

主伐後の樹種については、どういったものを考えているのか。

(事務局)

今後検討していきたい。

(委員)

今までは、成長が早くてまっすぐ育つ、杉を植えていたかと思うが、住宅着工件数が減っている点も踏まえて、人間にとっても、動物にとっても価値のある樹種を植えてほしい。そうすると、将来、残された子どもたちも、すごくありがたいなと思ってくれるような山になると思う。

(委員)

立木で売り払いをするのか。

(事務局)

売り方については、他県でもそういった販売が行われているので、今回は立木で売り払いを行ったが、これから検討する余地がある。

今回の試験的な販売は、石川県の木材産業振興協議会に登録される方に案内

し、広く入札に参加いただけるように配慮した。

(委員)

木材産業振興協会に木材登録する事業者で、入札参加できる事業者はほとんどいないと思う。市場での売り払いであれば、一般の製材所も参加できるので、そういう手法も1つではないか。

(委員)

市営造林については、地権者の意向に左右されやすい。

地権者の中には、契約更新はしたくないという人がいることも聞いたことがあるし、そういう意向も汲んで、取り組んでいく必要もある。

また、伐採した後、次何を植えるかについては、地権者の意向も当然あると思うが、適地適木という観点を大事にしてほしい。

航空レーザー測定のデータについては、どのような状況か。

(事務局)

測定は先月に終了した。これから3、4ヵ月かけて詳しくデータ解析していく。従前のデータとは9割ほど一致している。